

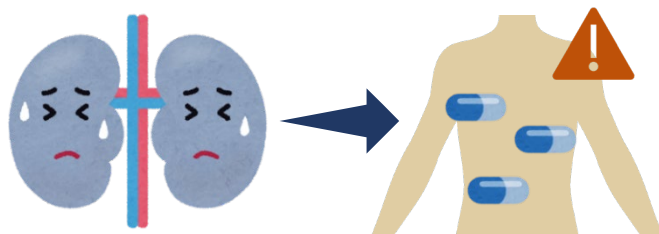
薬の伝言板 ～腎機能と薬～

No. 346 2026年9月

丸子中央病院 薬局

腎臓の働き

腎臓は、血液中の老廃物や塩分をきれいにし、不要なものを尿として身体の外に排出する役割を担っています。多くの薬も腎臓から体の外へと排泄されるため、腎臓の働きが弱くなると薬が体の中に残り、副作用が起こりやすくなることがあります。低下した腎臓の機能は元に戻りにくいため、早めの発見と進行予防が大切です。



また、腎機能は血液検査のクレアチニン値(Cr)などから計算される ^{イー・ジー・エフ・アール} eGFR という項目などで確認します。eGFR が低いほど、腎臓の働きは低下していると考えられます。

リスク因子

腎臓が低下するリスクを高める要因として、以下のものが挙げられます。現在、腎機能に問題がない方も、当てはまるものがないかチェックしてみましょう。リスクを知り、生活習慣を見直したり、適切な水分補給を心がけたりすることは、腎機能の低下を予防することにつながります。

- 65 歳以上
- 糖尿病
- 高血圧
- 喫煙している、飲酒量が多い
- 生活習慣の乱れがある（塩分・糖分のとりすぎ、運動不足など）
- 水分補給が少ない※



※心不全や慢性腎臓病などの方は水分制限が必要な場合があります。主治医の指示に従ってください。

前述の通り、腎機能が低下すると薬が体の中にたまりやすくなります。そのため、薬によっては腎機能に合わせて薬の量が調整されます。では、実際にどのような薬に注意が必要なのでしょう。

腎機能が低下しているときに注意したい薬の例

腎機能に注意が必要なお薬は多く存在しますが、以下の薬は特に注意が必要です。
今飲んでいる薬にどのような副作用があるか、ご自身でも事前に知っておくと安心です。

分類	薬の名前	主な副作用の症状
抗血栓薬	アピキサバン	あざが増える 鼻血・歯茎の出血が止まりにくい
	エドキサバン	
	リバーロキサバン	
	ダビガトラン	
胃薬	ファモチジン	強い眠気、ぼーっとする
	シメチジン	
糖尿病薬	メトホルミン	強いだるさ、吐き気・嘔吐
	グリメピリド	冷や汗、手の震え
神経障害性疼痛緩和薬	プレガバリン	眠気、ふらつき
	ミロガバリン	
抗菌薬	レボフロキサシン	強いめまい、意識がおかしい
	スルファメトキサゾール・トリメトプリム	発疹、吐き気・嘔吐
抗ウイルス薬	アシクロビル	強い眠気、ぼーっとする
	バラシクロビル	
	オセルタミビル	吐き気・嘔吐
鎮痛薬	ロキソプロフェン	むくみ、血圧上昇
	ジクロフェナク	
	イブプロフェン	



今回紹介した薬は、腎機能に注意が必要な薬の一部です。医師や薬剤師は、腎機能や検査結果をもとに薬の量を確認しています。薬局では、お薬手帳と一緒に検査の結果を渡していただくと、より適切な薬かどうか確認することができます。他院の薬、市販薬、サプリメントを含めて、使用中のものはぜひ医師・薬剤師に伝えてください。気になることがあれば、お気軽にご相談ください。